

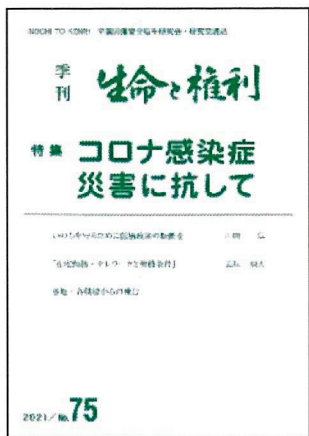
全国労働安全衛生研究会
定期購読のお知らせ

一般社団法人 全国労働安全衛生研究会では、働くものの心身の健康と安全を守るための学習と交流に向けて、出版物の発行を行っています。活動の一環として毎年発行される、季刊誌「生命と権利」と、「ろうあんけんのパンフ」の定期購読を申込受付中です。

パンフレット紹介

季刊誌「生命と権利」(年1回発行 700円)

最新号 No. 75



「コロナ感染症災害に抗して」

- ・いのちを守るために医療政策の転換を
- ・在宅勤務・テレワークと労働条件
- ・各地・各職場からの報告

これまでの間違った医療政策が、コロナの最中にも続いている問題。コロナを理由にして労働者の権利・労働安全衛生が壊されてきている実態。そして「各地・各職場からの報告」として19名の方々よりいただいた具体的な報告をもとに、コロナ災害の現状を学び合うための本です。

これまでの特集 … 「防災・防疫・復興」「ハラスメントの規制強化を！」
「過労死を防止するために」「医療・介護・国保はどうなるか？」…など。
バックナンバーの購入も可能です！

ろうあんけんのパンフ (年1~2回不定期発行)

	<p>「いのちを守ろう！ - 75歳以上患者2割負担を止めよう！ -」 2022年より始まる75歳以上の医療費患者負担2割化に潜む公費支出軽減の仕組みと、受診抑制で高齢者の「いのち」と「人間性」を奪われる危険を考えました。全世代で取り組むべき課題です。</p> <p>500円</p>		<p>「自己責任と自助でこわされる賃金・労働・社会」 社会保障も健康も雇用も…すべて自己責任とされ格差と貧困の社会が強められています。自己責任ばかりではおかしい！公的責任はどうなったのか？(協力：労大まなぶ編集部)</p> <p>800円</p>
	<p>「人災となった新型コロナ災害」 公衆衛生・医療・防疫を脆弱にし、感染症への公的な取組みを疎かにしてきた問題を、労働安全衛生の見解からまとめました。2020年4月発行ですが、現状はまだ変わりません。</p> <p>500円</p>		<p>「政治利用されているコロナ災害」 左記のパンフ「人災となった新型コロナ災害」の続きです。コロナ災害は明らかに悪政によって政治利用されてきています。過去・現在・未来につながる人災としての問題を考えたレポートです。</p> <p>200円</p>
	<p>「ICT化で脅かされる子どもの健康と学力」 ICT化は本当にいいことづくめなのか？学校における働き方改革をどう考えるのか？子ども達とこの社会が心配です。子ども達を守るために正しくリスクを知ることも必要です。</p> <p>700円</p>	<p>他にも労働安全衛生を中心に、医療・介護・病院問題、働く女性の健康、ハラスメントの問題など、働くものの問題を一人ひとりが気づき合い、考え合い、話し合う活動を続けています。是非周りの方々にも広めてください。一人ひとりの小さな声が集まるのが大きな労働安全衛生につながります！</p>	